**基礎看護学実習Ⅱ 評価表**

学生番号　　　　　　 学生氏名

実習期間：　　　　　年　　　月　　　日　～　　年　　　月　　　日

実習場所：　　　　　　　　　　　　　　病院　　　　　　　　　　病棟

**実習目標の到達度　【配点4×20＝80点】**

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
| 評　価　項　目 | 自己評価 | 教員評価 |
| 1．対象者との援助的人間関係を通して、対象者の価値観や信条、生活背景を理解できる |
| 1) 対象者の価値観を尊重して、患者や家族とコミュニケーションをとることができる | 4・3・2・1 |  |
| 2) 対象者の入院前後の生活様式、役割の変化や思いを知ることができる | 4・3・2・1 |  |
| 3) 対象者とのかかわりを通して対象者を理解し、自分で感じたことや考えたことを伝えることができる | 4・3・2・1 |  |
| 2．対象者の健康状態を理解し、健康の回復・維持・増進のために必要な看護を考え計画を立案できる |
| 1) 対象者や家族とのコミュニケーション、カルテなどから看護に必要な情報が収集できる | 4・3・2・1 |  |
| 2) 収集した情報を整理し、解釈・分析・推論できる。 | 4・3・2・1 |  |
| 3) 情報を関連図に表現できる | 4・3・2・1 |  |
| 4) アセスメントしたことから看護問題を明確化し、優先順位とその根拠を考えることができる | 4・3・2・1 |  |
| 5) 日常生活援助で優先度が高い看護問題について、個別性を考慮した看護計画を立案できる | 4・3・2・1 |  |
| 3．対象者の日常生活において必要な看護について実践し、評価できる |
| 1) 対象者に援助の目的・必要性や方法について説明し、同意の上で実施できる | 4・3・2・1 |  |
| 2) 立案した看護計画に基づき看護援助が実施できる | 4・3・2・1 |  |
| 3) 対象者の反応を観察しながら看護援助が実施できる | 4・3・2・1 |  |
| 4) 対象者に必要な援助を基本原則に基づき、安全・安楽に実施できる | 4・3・2・1 |  |
| 5) 援助に必要な物品の準備・後片付けができる | 4・3・2・1 |  |
| 6) 実施した看護援助について、観察しアセスメントしたことを報告し、SOAPで記録できる | 4・3・2・1 |  |
| 7) 看護計画の「期待される成果」に到達したか、計画立案が妥当であったか評価できる | 4・3・2・1 |  |
| 4．看護学生としての自覚と責任を持ち、実習に取り組むことができる |
| 1) 不明な点は自己判断せず、臨地実習指導者・実習担当教員や看護チームのメンバーに確認・相談できる | 4・3・2・1 |  |
| 2) カンファレンスに積極的に参加し、他者の意見を聞き自らも発言できる | 4・3・2・1 |  |
| 3) 学びの姿勢を大切にし、実習に取り組むことができる | 4・3・2・1 |  |
| 4) 言葉づかいや態度に気を付け、プライバシーを守り、他者と良い人間関係を築くことができる | 4・3・2・1 |  |
| 5) 対象者との関わりを通して日々振り返り、看護について考え表現することができる | 4・3・2・1 |  |
| 4： 少しの指導・助言でよくできた　　　　　/　大変よくできた3： 指導・助言を受けてできた　　　　　　　/　よくできた2： くり返し指導・助言を受けて一部できた　/　あまりできなかった1： 指導・助言を受けてもできなかった　　　/　できなかった | 点数 | 　　／80点 |

|  |
| --- |
| 【評価基準】1) 課題レポートを書く目的を理解した内容である（3点）2) 書式・文字数等レポートの形式が守られており、誤字脱字がない（3点）3) 自己の課題と振り返りが明確に書かれている（4点）4) 自己の看護について現実に関連付け、根拠を基に考察されている（4点）5) レポートの論理構成を守り記載されている（3点）6）文献が正しく明示・引用されている（3点） |
| 点数 | ／20点　　　 |

**課題レポート【配点20点】**

**総合評価**

|  |
| --- |
| **教員からのコメント**評価日　　　　年　　　月　　　日　　　　　　　　　　教員氏名　　　　　　　　　　　印 |
| 総合点 | ／100点 | 総合評価 |  | ＜判定基準＞S: 90点以上 A： 80～89点B： 70～79点　C： 60～69点D： 59点以下 |